



一般質問

ストレスマネジメント先進の村へ



まつむら ひろし
松村 広志
議員

質問 極度のストレスに満ちた現代社会。その根底にある憂慮すべき社会の潮流として、米国の心理学者は「肥大化する自己中心主義」、「希薄化する他者との関係性」を指摘している。国内では過剰なストレスが、過労死や高い自殺率を生みだしている。問題を象徴するワードに、キラーストレスや夫源病（ふげんびょう）等があげられる。過剰なストレスは、私達の健康を蝕むだけでなく、健全な社会や経済を駆逐していく要因でもある。行政における取り組みを伺う。

答弁 (保健福祉部長) 過剰なストレスが招く弊害として、無気力症・テクノストレス症候群・不眠症・自律神経失調症・うつ病・引きこもり等があげられる。行政からは、ストレスチェックなどのツールを介して啓発を促したい。

更には、人の繋がりや、社会力の強化によって、より心豊かな村づくりに向け取り組んでいきたい。

いじめ問題について

質問 全国的に後を絶たない「いじめ問題」。要因の一つに、「実態が掴みきれない」という声がある。学校教育側の認識の弱さが、対応・改善の取り組みを鈍らせていないか。

いじめについては、する側が100%悪い。「いじめられ

ていい子」も、「いじめていい権利を持つ子」も存在しない。「いじめられる側にも原因がある」という声は結局、いじめを正当化するだけではなく、いじめる側の心の破壊にも繋がる。加害者も被害者も「どっちもどっち」くらいに思っている限り、いじめは無くならない。本村の実態と取り組みを伺う。

答弁 (教育長) いじめ問題については、重要課題の一つとして取り組んでいる。本村においても、嫌がらせ等々が数件確認されている。いじめ問題等連絡協議会をはじめ、関係機関等と共に改善に向け対処したい。より健全な教育環境の構築に向け、真摯に取り組んでいきたい。

庁内や地域交流館内におけるBGM(背景音楽)の検討

質問 ストレス対策の一環として、ヒーリング効果も期待

されるBGMの検討はどうか。
答弁 (総務部長) 役場庁舎においては、業務が多岐に亘る為、慎重に検討していきたい。

答弁 (経済建設部長) 地域交流館は、多世代が交流する憩いの場所である。よって、BGMは環境設備としては有用と考えている。効果的に使っていきたい。

家庭用火災報知機について

質問 火災現場にあつて、頼みの火災報知機が作動しないというトラブルが多発している。全国で607件(5年間累計)にも上る。原因として電池切れや機器の故障等が言われている。メンテナンスの呼びかけは必要ではないか。

答弁 (総務部長) 産業文化フェスティバルや村防災訓練での啓発・周知活動のほか、村の広報誌やホームページ等でも、啓発を行っていききたい。